

区民参加型調査「としま生きものさがし」

1. 調査の目的

本業務における区民参加型調査の目的は、生物多様性についての普及啓発である。また多くの人の目で調査することで、夜間や私有地の生きものの生息・生育状況の記録、希少種の発見など、動植物生態調査と連携して区内の動植物相を把握することも目的である。

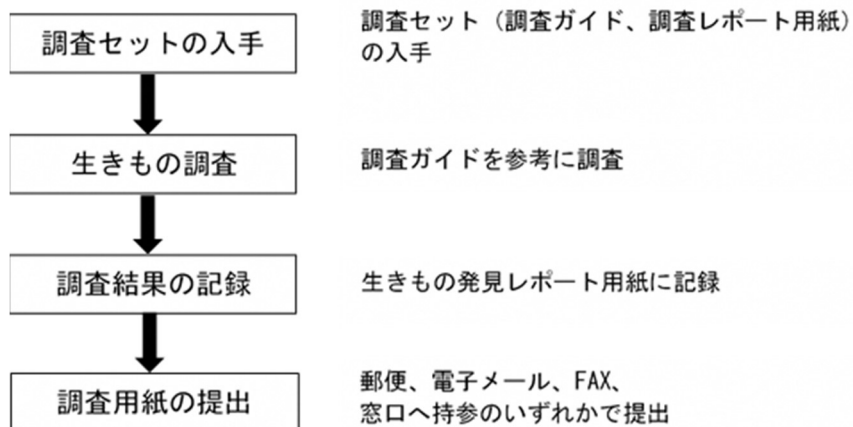
今年度は、参加者から調査用紙を送っていただく「報告型調査」を実施した。

2. 報告型調査

(1) 実施内容

今年度の実施内容は以下の通りである。

期 間：令和4年6月1日～9月30日
調査の流れ：図Ⅱ-2-1参照
調査対象種：図Ⅱ-2-2参照
配布物：としま生きものさがし2022年調査ガイド（図Ⅱ-2-2）
調査レポート用紙（図Ⅱ-2-3）
配布場所：環境政策課窓口、東・西区民事務所、区民ひろば、図書館、地域文化（入手方法）創造館等の施設にて配架。区立小学校3～4年生、区立保育園5歳児クラス、区立幼稚園4、5歳児クラス、フレイル事業参加者に配布。
その他 豊島区ホームページからもダウンロード可。



図Ⅱ-2-1 調査の流れ



区民参加型生きもの調査ガイド

としま生きものがし 2022

調査期間
2022年
6月1日
から
9月30日

生きものがしの参加方法

1. 生きものをさがす
さがす場所は、区内であればどこでもOK!
2. 生きもの発見レポートを書く
生きものを見つけたら生きもの発見レポート用紙に書こう!
3. 生きもの発見レポートを送る
右の「生きもの発見レポートの送り方」を見て送ろう! (写真も撮れたら送ろう!)

生きもの発見レポートの送り先

しめ切り 2022年10月17日

- ① 〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1
豊島区環境政策課 環境計画グループ 宛
- ② Eメール: A0029180@city.toshima.lg.jp
- ③ FAX: 03-3980-5134

問い合わせ先 TEL: 03-3981-1597

生きもの発見レポートの送り方

- ① 郵便で送る。
- ② Eメールで送る。
- ③ FAXで送る。
- ④ 区役所の窓口へ持参する。
(本庁舎6階・平日のみ)

下の送り先に送ろう!

生きものをさがす時の注意

1. むやみに生きものを触らないようにしましょう。
2. 観察した生きものは、速がしてあげよう。
3. 蚊にさされないように虫よけスプレーなどを使おう。
4. 毛虫やハチ、ヘビなどの生きものには注意しよう。
5. 小さな子は大人といっしょに調査しよう。
6. きげんな場所や他人の土地には入らないようにしましょう。

生きもの発見レポート用紙は、豊島区のホームページの「としま生きものがし(生物多様性)」のページからダウンロードできます。

こちらのQRコードから「としま生きものがし」のページへどうぞ!



ニュースレターもあるよ!

新型コロナウイルス感染拡大防止のための注意喚起

- ・3つの密(密閉空間、密集場所、密接場面)の重なる場所への外出は避けよう。
- ・発熱時やかぜ症状など、体調の優れない時には外出しないようにしましょう。
- ・外出した後は、石けんによる手洗いや手指消毒剤の使用をお願いします。

運営・発行: 豊島区環境政策課 環境計画課 編集協力: 株式会社生態計画研究所

目指すターゲットは15!

区民のみなさん自身が生きもの調査員になって、区内の生態調査を行います。毎年さがすことで、生きものがどのくらいいるかの変化を知ることができ、生物の多様性を保つための重要な一歩になります。



豊島区は持続可能な開発目標 (SDGs) を推進しています。

参加方法はうらへん

図Ⅱ-2-2 としま生きものがし 2022年調査ガイド (1、4ページ)

さがしてほしい生きもの 23種（ここに書いていない生きものも見つけたら おしえてね。）

チョウのなかま
花など花の咲いているところをさがしてみよう。幼虫が食べる葉のまわりをさがすと、卵やうみに来る幼虫にあえることがあります。

① アゲハ（ケミアゲハ）
幼虫の食べる葉：ミカン、サツシヨウなど

② クロアゲハ
幼虫の食べる葉：ミカン、サツシヨウなど

③ アオシシアゲハ
幼虫の食べる葉：クスノキのなかま（クスノキ、タブノキなど）

④ ツマグロヒヨウモン
幼虫の食べる葉：スミレのなかま（タチツボスミシ、ハンジローなど）

トンボのなかま
池のまわりをさがしてみよう。

⑦ シオカラトンボ
オスはうすい水色、メスは体がくすんだ緑色で、腹は黒緑色です。

⑧ オオシオカラトンボ
オスもメスもはねの付け根や腹の色が黒っぽいです。

バッタ・カマキリのなかま
草むらや木の上をさがしてみよう。

⑨ ショウリウヨウバッタ
うしろあしが長く、めだちます。

⑩ ハラビロカマキリ
はねに白い点があります。

ゼミのなかま
鳴き声により、木の幹や枝の上をさがしてみよう。

⑫ アブラゼミ
ジリジリ ジリジリ

⑬ ミンミンゼミ
ミンミンミンミン

アズマヒキガエル
池のまわりの林をさがしてみよう。木のまわりの林をさがしてみよう。

その他の生きもの
鳥をさがす時は、鳴き声によりをさがしてみよう。

⑭ ヒヨドリ
公園や家のまわりをさがしてみよう。公団や家のまわりをさがしてみよう。

⑮ オオカマキリ
体が大きく、はねに白い点はありません。

アキアカネ
秋に池や川でよく見られる。幼虫は水生昆虫で、成虫は陸生昆虫です。

ムクドリ
公園や家のまわりをさがしてみよう。

ニホンヤモリ
家のまわりをさがしてみよう。

ガイドブックも見てね！
区内で見られるおもしろ生きものガイドブック「おもしろ生きものガイドブック」が、おもしろ生きものガイドブックとして発行されています。区のホームページからダウンロードできます。

おもしろ生きものガイドブック 検索

期間中、生きものについての質問は toshima-kinomono@eco-plan.jp まで。

図Ⅱ-2-2 としま生きものさがし 2022年調査ガイド（2、3ページ）

としま生きものさがし2022 **生きもの発見レポート用紙（おもて）**

◆下の「豊島区に」と「年れい」のあてはまるところを○でかこんでください。

豊島区に： さいゆう / さいいん / さいがく / その他	年れい： 幼児 / 保育園児 / 幼稚園児 / 学生（小・中・高） / その他の10代 / 20代 / 30代 / 40代 / 50代 / 60代 / 70代 / 80代以上
-----------------------------------	--

◆下に書かれている生きものをみつけたら、みつけた日とみつけた場所を書いてください。

No.	みつけた生きもの	みつけた日 (月日)	みつけた場所 (町、公園、学校、駅、施設などの名前、自宅などの場合は町名等を書きます。)	セミのなかま			
例	ミンミンゼミ	8/1	自宅の庭 (南池袋2丁目)	⑫	アブラゼミ	/	
				⑬	ミンミンゼミ	/	
				⑭	クマゼミ	/	
				⑮	ヒグラシ	/	
					そのほかのセミ ()	/	
				バッタ・カマキリのなかま			
				⑯	ショウリョウバッタ	/	
				⑰	オンブバッタ	/	
				⑱	ハラビロカマキリ	/	
				⑲	オオカマキリ	/	
					そのほかのバッタ・カマキリ ()	/	
				トンボのなかま			
⑦	シオカラトンボ	/		その他の生きもの			
⑧	オオシオカラトンボ	/		⑳	ヒヨドリ	/	
⑨	ギンヤンマ	/		㉑	ムクドリ	/	
⑩	クロスジギンヤンマ	/		㉒	アズマヒキガエル	/	
⑪	アキアカネ	/		㉓	ニホンヤモリ	/	
	そのほかのトンボ ()	/			そのほかの生きもの ()	/	

◆ほかの生きものを見つけたら、うらに書いてください。

図Ⅱ-2-3 調査レポート用紙（表面）

としま生きものさがし2022 **生きもの発見レポート用紙（うら）**

No.	みつけた生きもの	みつけた日 (月日)	みつけた場所 (町、公園、学校、駅、施設などの名前、自宅などの場合は町名等を書きます。)	No.	みつけた生きもの	みつけた日 (月日)	みつけた場所 (町、公園、学校、駅、施設などの名前、自宅などの場合は町名等を書きます。)
例	ナナホシテントウ	7/19	南池袋2丁目	例	ジョロウグモ	9/25	としま小学校
1		/		6		/	
2		/		7		/	
3		/		8		/	
4		/		9		/	
5		/		10		/	

生きものさがしに参加した感想などがあれば自由に書いてください。(生きもののイラストも待ってるよ！)

生きものさがしプレゼント申し込み欄 (窓口に出す場合は書きません)

名前	住所〒
電話番号	

ニュースレター発行のお知らせ希望欄

※ニュースレターは令和5年2月頃、ホームページに掲載予定です。発行次第、Eメールでお知らせします。

お知らせを希望する場合はEメールアドレスをご記入ください	Eメール：
------------------------------	-------

【生きもの発見レポートの送り方】

つぎのいずれかの方法で送ってください。
 ①郵便で送る ②Eメールで送る ③FAXで送る
 ④区役所の窓口を持参する (本庁舎6階・平日のみ)

※写真を提供していただける場合は、①、②、④の方法で送ってください。(一度に4MBくらいまで)
 ※いただいた写真・絵・感想等は広報などで使わせていただく場合があります。写真等は原則として返却いたしません。

【送り先】 締切 令和4年10月17日まで

①〒171-8422
 豊島区南池袋2-45-1
 豊島区 環境政策課 環境計画グループ 宛
 ②Eメール：A0029180@city.toshima.lg.jp
 ③FAX：03-3980-5134
 問い合わせ先 TEL：03-3981-1597

図Ⅱ-2-3 調査レポート用紙（裏面）

(2) 調査結果

概要を表Ⅱ－２－１に示す。

表Ⅱ－２－１ 報告件数等の概要

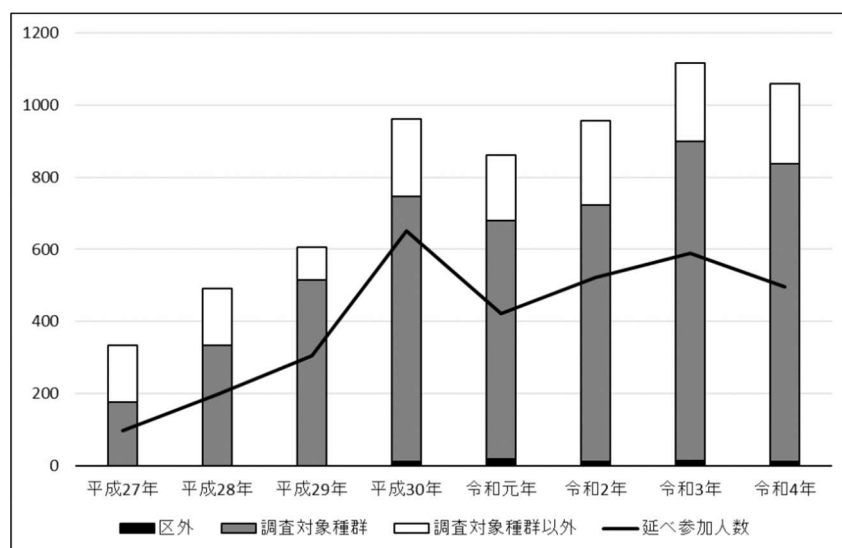
項目	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年		
報告件数 (うち区外)	1,059 (11)	1,115 (15)	957 (11)	861 (19)		
調査対象種(種群)件数	826	883	711	661		
調査用紙 回収枚数	回収 方法	メール	23	27	7	3
		FAX	2	0	1	0
		郵送	8	13	4	20
		窓口	67	60	85	22
		電子申請	0	0	0	2
		イベント	-	-	-	152
		電話	1	0	0	0
計	101	100	97	199		
延べ参加人数	495	589	521	421		

1) 報告件数と延べ参加人数の推移

本調査開始以降の報告件数と延べ人数の推移を示す(図Ⅱ－２－４)。

報告件数は、「としま生きものさがし 2022 調査ガイド」掲載の調査対象種(種群)の報告、調査対象種(種群)以外の報告、区外からの報告、に分類している。ただし、調査対象種群は必要に応じて見直しているため、年により内容が異なる。延べ人数は、人数×日数で集計している。

今年度は報告件数、延べ人数ともに昨年度より若干減少したが、概ね同程度の参加があった。



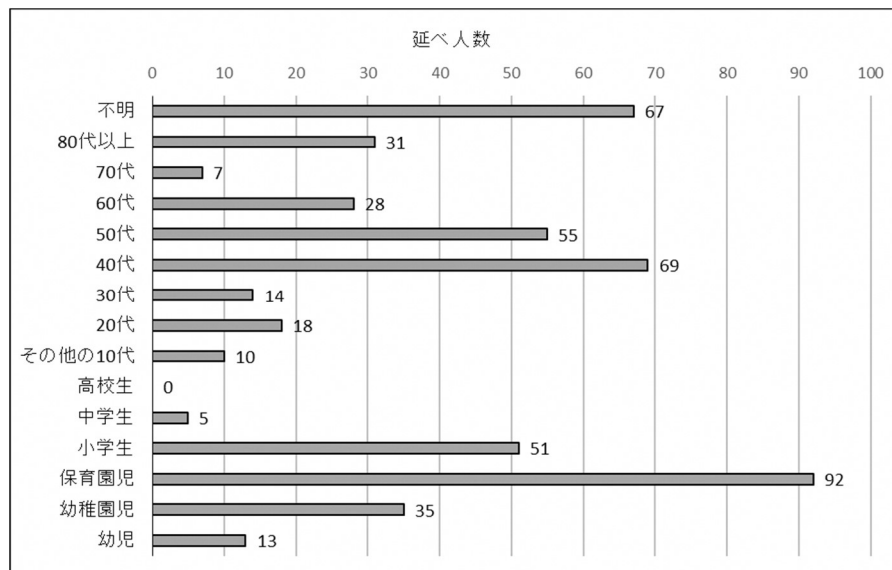
図Ⅱ－２－４ 報告件数と延べ参加人数の推移

2) 参加者の属性

①年代

参加者の年代別の延べ人数は、保育園児が延べ92人で最も多かった(図Ⅱ-2-5)。次いで40代が69人、50代が55人と続く。

例年は、中学生以上の学生や20代の参加が少ないが、今年度は幅広い年代の参加があった。



図Ⅱ-2-5 年代別の延べ人数

②居住区分

参加者の在住、在勤、在学の別を示す(表Ⅱ-2-2)。在住者が延べ412人と最も多く、次いで在学者、在勤者の順となった。

表Ⅱ-2-2 在住、在勤、在学別の延べ人数

項目	在住	在勤	在学	その他	不明	合計
延べ人数(人)	412	9	29	3	42	495

3) 報告の内訳

①地域別の件数

地域別の報告件数は南長崎、目白、駒込の順で多かった(表Ⅱ-2-3)。それぞれ主に、南長崎はらっぱ公園、学習院大学、染井霊園などから報告があった。

②分類群別の件数

昆虫が842件、111種と最も多く、次いで鳥類が121件、18種となった(区外からの報告を除く)(表Ⅱ-2-4)。種数は重複している可能性があるものや疑わしいものを除くと、合計150種であった。

表Ⅱ-2-3 地域別の報告件数

町名	件数
南長崎	164
目白	122
駒込	96
南大塚	93
西巣鴨	77
高松	60
南池袋	59
東池袋	56
長崎	42
高田	37
巣鴨	31
西池袋	25
千早	22
北大塚	18
池袋本町	17
要町	12
上池袋	9
雑司が谷	8
池袋	6
区外	11
不明	94
計	1,059

表Ⅱ-2-4

分類群別の報告件数および種数

	件数	種数
植物	0	0
哺乳類	9	4
鳥類	121	18
爬虫類	19	3
両生類	40	2
昆虫類	842	111
魚類	1	1
クモ類	9	6
その他	7	5
総計	1,048	150

※区外からの報告11件を除く。

③調査対象種(種群)の件数

報告件数は826件であった(区外からの報告を除く)(表Ⅱ-2-5)。チョウのなかまの報告が373件で最も多く、次いでセミのなかま142件、トンボのなかま117件であった。種別ではナミアゲハの報告が最も多く、次にモンシロチョウ、ミンミンゼミの順であった。

調査ガイドで紹介していない種でも、その種群に含まれば集計に入れた。例えば、チョウのなかまのヤマトシジミは調査ガイドに掲載していないが、件数にカウントした。なお、表中に網掛けで示した行は調査ガイドに掲載した調査対象種である。

表Ⅱ－２－５ 調査対象種（種群）の報告件数

	チョウの なかま	セミの なかま	トンボの なかま	バッタ・ カマキリ のなかま	ヒヨドリ・ ムクドリ	トカゲの なかま	アズマ ヒキガエル	合計
ナミアゲハ	117							117
モンシロチョウ	64							64
ツマグロヒョウモン	50							50
クロアゲハ	39							39
アオスジアゲハ	31							31
ヤマトシジミ	24							24
キタキチョウ	15							15
イチモンジセセリ	6							6
オオスカシバ	4							4
ルリシジミ	4							4
オオミズアオ	2							2
ジャコウアゲハ	2							2
ツバメシジミ	2							2
ヒメアカタテハ	1							1
アカボシゴマダラ	1							1
ウリキンウワバ	1							1
キアゲハ	1							1
コスズメ	1							1
ツマキシヤチホコ	1							1
ネグロミノガ	1							1
シジミチョウ科の一種	1							1
ジャノメチョウ科の一種	1							1
シャクガ科の一種	1							1
スズメガ科の一種	1							1
ヒトリガ科の一種	1							1
チョウ目の一種	1							1
ミンミンゼミ		55						55
アブラゼミ		53						53
ツクツクボウシ		14						14
クマゼミ		8						8
ニイニイゼミ		5						5
ヒグラシ		5						5
セミ科の一種		2						2
シオカラトンボ			54					54
アキアカネ			33					33
ギンヤンマ			10					10
オオシオカラトンボ			5					5
アジアイトトンボ			2					2
ナツアカネ			2					2
アオモンイトトンボ			1					1
イトトンボ科の一種			1					1
ウスバキトンボ			1					1
クロイトトンボ			1					1
クロスジギンヤンマ			1					1
コシアキトンボ			1					1
コノシメトンボ			1					1
チョウトンボ			1					1
ノシメトンボ			1					1
トンボ目の一種			2					2
オンブバッタ				23				23
ショウリョウバッタ				17				17
ハラビロカマキリ				12				12
オオカマキリ				6				6
クビキリギス				6				6
コカマキリ				3				3
ツツレサセコオロギ				3				3
モリオカメコオロギ				3				3
カナタタキ				2				2
サトクダマキモドキ				2				2
エンマコオロギ				1				1
ショウリョウバッタモドキ				1				1
トノサマバッタ				1				1
ハラヒシバッタ				1				1
オカメコオロギ類の一種				2				2
コオロギ科の一種				5				5
バッタ目の一種				3				3
ムクドリ					34			34
ヒヨドリ					15			15
ニホンヤモリ						14		14
ヒガシニホントカゲ						4		4
ニホンカナヘビ						1		1
アズマヒキガエル							35	35
合計	373	142	117	91	49	19	35	826

④新たに確認された種

区民参加型調査により、動植物生態調査で確認されていない種が新たに7種、報告された(表Ⅱ-2-6、図Ⅱ-2-6)。動植物生態調査で対象としていない種群や飼育されたもの、園芸草本類は除く。

いずれも普通種であるが、樹林に生息するビロードハマキや、地中に営巣するトラマルハナバチなど、比較的自然度が高い場所を好む種が見つかった。

区内の自然情報を把握するため、今後も幅広い年代に参加を呼び掛け、情報収集していけるとよい。

表Ⅱ-2-6 新たに確認された種

分類群	目名	科名	種名	備考
昆虫	チョウ	ミノガ	ネグロミノガ	
		ハマキガ	ビロードハマキ	
		シジミチョウ	ルリシジミ	
		シャチホコガ	ツマキシヤチホコ	
	コウチュウ	テントウムシ	カメノコテントウ	
		ハムシダマシ	ヒゲブトハムシダマシ	
	ハチ	ミツバチ	トラマルハナバチ	



ビロードハマキ
駒込五丁目(染井霊園)



トラマルハナバチ 池袋本町四丁目

図Ⅱ-2-6 新たに確認された主な種

(3) 広報ツール作成

1) 作成の目的

区民の方への「としま生きものさがし 2022」の結果報告、および生物多様性についての普及啓発と今後の参加型（報告型）調査への参加を促すことを目的とする。

2) 構成

A3 両面で 2 つ折りし、A4 サイズ 4 ページのニュースレターとした。

1 ページ目：「フォトコーナー」

参加者から投稿いただいた写真を掲載した。

2 ページ目：「調査結果」

報告の内訳を、調査対象種（種群）と調査対象種（種群）外の生きものに分け、円グラフで示した。見つけた生きものランキングや、見つかった希少な生きもの、報告件数の比較などを、イラストやグラフを交えて紹介した。

3 ページ目：「としまで見つけた生きものマップ」「感想」

どこでどんな生きものが見つかったかを、写真と地図を用いて紹介した。また、参加者の感想と、いただいたイラストの一部を掲載した。

4 ページ目：「コラム」

生きものの観察を促すためのコラムを掲載した。今年度報告が多かったツマグロヒョウモンを取り上げた。

ニュースレター 令和 4 年号を図Ⅱ-2-7に示す。

これまで見つけた生きもののマップ

「さがしてほしい生きもの」が見つかったおなな場所を紹介します。



- ① クロアゲハ
- ② アオスジアゲハ
- ③ ハラヒロカマキリ
- ④ アキアカネ
- ⑤ クマゼミ
- ⑥ オンプバッタ

学校や公園のほか、家の染井園や南長崎はらつば公園など、林のある公園でもよく見られました。園で多く見つけました。

オスは秋に腹部が赤く色づきます。早稲フラー公園などで見つけました。

近年、園で増えていきます。シヤーンジャーと牛蒡の中に多く見つけました。

公園などのほか、保育園で育てているというレポートもありました。

参加者のみなさんからの感想

みちかな公んでもいいいきものがずいぶん見つかった。(小学生)

100円で買った虫採りあみと虫かごを持って自転車であちこち探した暑い夏になりました！記録を始めたけど(自然は忘れたいけど)の草も見つけた！というもあり、よく注進して探したのって、結構機会がなかったかも、と思いました。(30代)

南地保公園でいるいるなトンゴを見かけましたが、飛びまわっているので判別できませんでした。残念！！(60代)

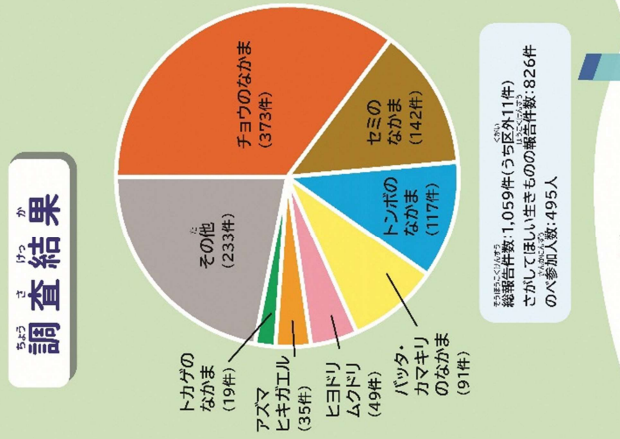
今年の生きものさかしの成果は、上端な大きな蝶に出会ったことで、種族を調べるとキムネクマハチでした。(年代不明)

秋冬は冬鳥が来るので、引き継ぎ観察していきたいです。(40代)

保育園でこの用紙をもらってから、3か月ほど、あきることなく生き物を見つけては母に記入するよう求めてきました。親子で楽しんで、とてもよい取組だと感じました。ありがとうございました。(母)

- ### 見つけた生きものランキング
- 1 ナミアゲハ (117件)
 - 尾の金斑の形にとまているのがみられてきれいかった。(保育園児)
 - 2 モンシロ子ヨウ (64件)
 - つかまえられるなかったけど、美しかった。(保育園児)
 - 3 ミンミンゼミ (55件)
 - セミが大合唱している音がすごかった。(40代)

- ### 区内のめずらしい生きもの
- ツミ
 - 雑木林にすもつカカのなまです。染井園で見つけました。
 - ニホンカナヘビ
 - 2年ぶり2回目と報告です。空地ややがが少なくなり、すみかが減っています。
 - キノコウエトタゲモ
 - 土の中に巣を作るクモです。生きものさがしでは初めて見つけました。



調査結果より ～トンゴ編～

今回の調査では、明るく水辺にすむトンゴが多く見つけられました。みなさんの周りではどうでしたか？

- シオカラトンボ (54件)
- アキアカネ (50件)
- オオアゲハ (50件)
- アキアカネ (50件)
- アキアカネ (50件)
- アキアカネ (50件)
- アキアカネ (50件)

こんな発見がありました！

場所でもオウゴンゴは初めて見たので、嬉しいです。(60代)

普通区では少しめずらしいトンゴはあがきまわりました。(50代)

「ヤマトジミと少し違うな」と思い調べてみると「ヤマトジミ」という種類だった。(50代)

去年はギンヤンマを育てました。そして今年アキアカネを育てました。2匹とも育てようかと。(小学生)

図VII-2-7 ニュースレター 令和4年号(2,3ページ)

(4) 今後の展望

1) 今年度の成果

①参加者数

調査用紙の回収枚数は、昨年度よりも増加した（昨年度：100枚、今年度：101枚）。例年は小学生以下の子どもと、その保護者から上の世代が主な参加であったが、今年度は、10代や20代の比較的若い世代の参加もあった。

一方で、一人あたりの報告件数が減少し、延べ人数の合計も昨年度より少ない結果となった。要因の一つとして、調査用紙の課題が挙げられる。現在の調査用紙は、一つの種に対し一つの日付を記入することになっている。しかし、一種に対し複数の日付を報告したい方が、記入欄が少ないために例えば「6～9月」と記載した場合、具体的な日付が不明のため延べ人数は4か月分で「4」となる。つまり、実際に生きものを確認した日数よりも少なく集計されることになる。そのため、用紙の改善により複数の日付を記入することができれば、不明日分の報告件数と延べ人数を集計することができるため、増加が見込めると考えられる。

②報告内容

ナミアゲハ、モンシロチョウ、ミンミンゼミが上位を占めた。加えてアブラゼミも毎年報告が多く、区民の方にとって身近な種であることがうかがえる。

希少な生きものとして、区民参加型調査では初めて、キシノウエトタテグモの報告があった。環境省レッドリストで準絶滅危惧、東京都（区部）レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。土の中に巣を作るため、開発で生息地が減少している。他にも、東京都（区部）レッドリストで絶滅危惧Ⅰ類のニホンカナヘビなど、絶滅のおそれのある生きものが複数報告された。

感想を見ると、「たのしかった」「引き続き観察していきたい」など、概ね好評をいただけた。また、「高齢者の方にも呼びかけてみたらどうでしょう」や、前述の調査用紙の課題に関連して「記入欄が少ない」などの意見があった（表Ⅱ-2-7）。

③協力団体

今年度は都立雑司ヶ谷霊園、染井霊園にて、調査用紙やポスターの設置、参加の呼びかけを行っていただいた。

団体では高松第二保育園、南長崎はらっぱ公園を育てる会からの参加があった。

2) 次年度の提案

①調査用紙の改善

- 1) ①で挙げた課題や参加者の感想を受け、改善点として以下が考えられる。
 - I) 記入欄の縦幅を狭くし、行を増やす。
 - II) 日付欄を増やす。
 - III) 種名を空欄にし、見つけた生きもののみ記入できるようにする。さがしてほしい生きものは調査用紙内で簡単に紹介する。

②調査対象種について

本調査を開始した平成 27 年度は、調査対象種は指標性を考慮して選定された。しかし、指標種の調査よりも生きものに興味を持ってもらう段階が必要であることが課題に上がり、平成 28 年度には親しみやすさ、見つけやすさをもとに対象種が見直された。

報告件数が増加し、「生きものへの親しみ」という目的がある程度達成できていることから、今年度は指標性も再び考慮し、オオカマキリとクロスジギンヤンマを調査対象種に追加した。オオカマキリは草原性で、樹上性のハラビロカマキリとは棲み分けている。都市部では草原環境が減り、街路樹などで生息できるハラビロカマキリのほうが優勢であるが、区内の環境を探るため対象とした。クロスジギンヤンマは、薄暗い水辺環境を好み、明るい環境を好むギンヤンマと棲み分けている。樹木に囲まれた学校ビオトープなどではクロスジギンヤンマの方がむしろ多いことがあり、こちらも区内の環境を探るために対象とした。

今後、見つかった場所や件数を蓄積することで、生きものすみかとなる環境やその変化を把握する一助としたい。

③参加者を増やす取り組み

引き続き、市民団体や学校との連携を行っていくことが望ましい。総合学習や理科の授業、クラブ活動などに取り入れてもらうことで小学生や中高校生の参加が期待できる。また、感想にもある通り、高齢者の方への呼びかけの機会もあるとよい。

加えて、職員が常駐している公園や緑地での配布も効果的と考えられる。区立施設では池袋の森、目白の森、目白庭園などが挙げられる。区立施設ではないが、緑量の多い学習院大学などでも、可能であれば周知できると良い。

表Ⅱ-2-7 参加者の感想(1/2)

レポート 用紙の 通しNo.	感想
1	砂場の柵の近くに、たくさんのアリの巣があり、二十匹くらい捕りました。
2	砂場の柵の近くにアリの巣がたくさんあり、土ごと捕る
5	子供と身近な生物を知るいい機会でした。
6	たのしかったです
7	ナミアゲハがみられてうれしかった。(庭の金柑の花にとまっていました)
8	生き物を見つけても、写真を撮ろうと近づくと逃げてしまい難しかった。
10	去年と違う生き物に出会えて良かったです。豊島区の生き物がどんどん増えていけたら嬉しいです。
11	みじかなおえんでもいっぱいいきものがすんでいることがわかった。
12	豊島区は公園が多く、今の時期はセミが大合唱してにぎやかだった。子どもと一緒に生きものがしをして楽しかったです。
16	9月4日、マナビトの11月講座「都市の生物多様性」の事前自然観察会を、講師の立教大学奇二正彦先生と13:00～13:30に数人で行いました。先生が名前を教えてくださいなれば、チョウ、セミ、バッタ…の区別しつかないところ、記入できて良かったです。又、9月中にあるので、みつけてみます。
20	目白駅ホームドアに、「上手にタバコのすいがらをくつつける人がいるものだ」と、よく見ると、足がついていて、びっくりしました(ツマキシヤチホコガ) ハクビシンの足音が近づいてきたので、「よお」と声をかけると、ふりかえって、しばらく目が合います。夜中2時頃ですが。(いつもアルミベイの上を歩く) 今年の生きものがしはの成果は、上品な大きな蜂に出会ったことです。種類を調べるとキムネクマバチでした。(初)いつもは、コマルハナバチをよく見ますが5～6月頃でした。9月に会ったのは、クマバチでした。黄色のふわふわの毛が、とっても素敵。
21	7月中旬に自宅のレモンの木にアゲハちょうが来てたまごを生みました。3匹サナギになり一匹はちょうになりました。暑かったため2匹はサナギのまま成虫にはなりませんでした。
24	・参加したことで何げなく歩いても意識が変わりました。…動くモノに反応してしまいます。 ・個体数はいらぬのですか？トンボの乱舞に思わず数を数えてしまいました。 ・動く物体をスマホで撮るコツを教えてください。 ・“アキアカネ”と“ナツアカネ”オレンジ色の濃さが違うようです。正確にするには、レクチャーが必要です。 ・お散歩することの多い高齢者の方にも呼びかけてみたらどうでしょう？目的意識があると楽しくなると思います。
27	エンマコオロギがかっこよかった。
28	豊島区全体の生物相に関する詳細な報告がないように思う。他区では数年をかけて専門家による調査を行っているところもある。今回はそのような主旨ではないのは承知だが、そちらも行われることを期待。
30	要町保育園でこの用紙をもらってから、3か月ほど、あきることもなく生き物を見つけては母に記入するよう求めてきました。親子で楽しんで、とてもよい取組だと思いました。ありがとうございました。(母)
31	草木に隠れている生き物が多いので、見つける事が難しかったです。 秋冬は冬鳥が来るので、引き続き観察していきたいです。
33	6歳の息子と家の近所で見つけた虫たちです。 巢鴨・駒込間の山手線沿いをよく歩くのですが、何年も維持されてきた樹木などの植物が一昨年からは徹底的に伐採されるようになりました。昨年の工事で土壌までもが除去され固められてしまいました。植物がほとんど生えなくなり、虫や鳥の数が激減したように思います。除草の手間を省くためかと推測しますが、管理責任(工事主体)はJRか豊島区のどちらでしょうか？ 並木のサクラは豊島区の管理でしょうが、数年前に剪定ミスで2本も枯らしてしまったことがありました。今年は突然2本伐採されました。何の説明もありませんが、どの部局の担当でしょうか？
35	近所を散歩する時に自然観察しています。 近所でチョウトンボは初めて見たので、嬉しかったです。
41	南池袋公園でいろいろなトンボを見かけましたが、飛びまわっているので判別できませんでした。残念！！
42	たのしいよ。
43	虫さがしは虫のことがよくわかるから好き。虫を育てるのも好き。
44	アブラゼミの音はどこから出てるのかな～って思ってたんだけど、しっぽのところから出てるんだって。
46	ふつうだった。
47	たのしいです。つかまえてみせるのがたのしいです。
48	虫を見つくと、おうちで調べようという気持ちになる。
49	たのしかった
50	たのしい

表Ⅱ-2-7 参加者の感想（2/2）

レポート 用紙の 通しNo.	感想
51	虫さがし、すき。
54	いきものさがしはたのしいです。
56	たのしかった！
59	みつけた日が1日しか記入できないのが不便だった。最初に見つけた日を書けばいいのか、見つける度に書くのかがよくわからなかった。
60	昨年に比べ、セミを見る機会が少ない様に感じました。
61	6月半ばに転居して来ました。前住居は60年余住んで居り、区のモニターで“関東たんぼぼ探し”“蝉の鳴き始め終り”環七の汚染測定(電車で測定器をつけ、毎日データ記録)等モニターに参加しました。何かぼんやりしているより楽しいと思いますので・・・。
62	4歳の子供と一緒に家の周りの生き物を探しました。
63	<p>10年ほど前から、主に自宅の庭・自宅近隣施設・西巢鴨小学校(ビオトープ、プール)等を通年で観察している。自宅庭では、毎年のアブラゼミの他に今年初めてミンミンゼミも羽化していることが判明。また、コンアキトンボを自宅庭で初めて目撃したり、「ヤマトシジミと少し違うな」と思い調べてみたら「ツバメシジミ」という種類だったり。</p> <p>西巢鴨小学校のビオトープは、2年前より月1回程度の整備作業を行っており、ついでに生きもの観察も実施。当初植栽した植物が高さ3メートルを超える物もでてきており、生きものの棲み家として充実してきているように感じられる。</p> <p>自然の少ない豊島区においては、学校ビオトープや公園等が生きものとふれあえる貴重な場であると改めて感じた。</p>
64	去年はギンヤンマをそだてました。そして今年アキアカネをそだてました。2ひきとも育ててよかったです。
65	オオミズアオに関しては今年初めて区内で発見したので、区内に元々いる個体かどうかはわかりません。
66	3才の息子と図書館や公園に行くたびに虫さがしをしたり、保育園のお友達は染井霊園でセミや虫を採っていると聞いて、いざ行ったら一匹も見つからなかったり…(朝早すぎた!? 天気も関係あるの!?) 100円で買った虫採りあみと虫かごを持って自転車であること探した暑い暑い夏になりました!! 記録を忘れたけど(日付は忘れたけど)この虫も見つけた! というのもあり、よ〜く注意して探したりするのって、結構機会がなかったかも、と思いました。
67	「つかまえられなかったけど、楽しかった」(「つかまえたい」と言って泣いていました。)
68	記入欄が少ない!! 自然にふれあういいきっかけだった。もっと生物が多様であればいいのに。
69	<p>毎年夏には玄関先から上り階段のところに虫が飛び込んできます。蜂が入ってくるとたいいていの人がこわがるので、なるべく生きたまま捕獲して外へにがします。今年は、手に収まるくらいの巣を1階出入口近くに見つけたので、仕方なく取り除きました(本当はちょっとかわいそうな気持ち・・・)今回レポートしたセミやカマキリ、テントウムシはまあ人気者なのでどこに出没しても安心ですね。</p> <p>出没といえば残暑厳しい夕暮れ時、目の前の公園にちょっと違和感を覚える動物が。「顔が違う、ネコじゃないぞ」ハクビシン・・・というやつ?</p>
101	生物がいるのに名前が分からないのが残念です